

期の平準化、伐採との一括の生産技術の向上や低コスト化、供給体制の整備などは大きく、民有林への普及を図るうえでも、国有林で先導的に利用していく必要がありま

準備会では、コンテナ苗

の生産技術の向上や低コスト化、供給体制の整備などは大きく、民間団体・県・国等が連携してこれらの情報を共有していくことを確認しました。



二月一四日、四国森林管理局において、「平成二五年度育種事業打ち合わせ」を林木育種センター関西育種場、四国森林管理局から計画課、森林整備課、森林技術・支援センター、技術普及課が出席し開催しました。

二月一四日、四国森林管理局において、「平成二五年度育種事業打ち合わせ」を林木育種センター関西育種場、四国森林管理局から計画課、森林整備課、森林技術・支援センター、技術普及課が出席し開催しました。

また、平成二五年度四国森林・林業研究発表会で発表（森林技術・支援センター、高知中部森林管理署）した「下刈省力化とシカ害対策に向けた新たな試みについて」エリートツリー植栽とシカ害防止クリップの導入は、育種場の試験地と同じ小班内に試験地を設定していることから試験



事業打ち合わせの様子

内容、データの共有など大いに相乗効果が図られることが期待されています。 ※エリートツリー 成長が早く、幹がまっすぐ伸びる等の優れた性質を持つ精英樹を交配して出来たものうち特に性質の優れた樹木。



二月二一日、高知県立森林研修センター 情報交流館において、いの町立神谷小中学校の小学一年生（二名）、一年生（三名）、三年生（五名）児童計一〇名と教員三名を対象とした森林教室を行いました。

今回の森林教室（木工教室）は、情報交流館から神谷小中学校のお別れ遠足を兼ねた森林学習を同館が行うので、小学校の低学年を

ましたが、それだけ子ども達にとつて一番身近な川だと感じさせられました。

次に、「大きな川も元をたどれば山からなんだよ。」ということ、紙芝居「森」の読み聞かせを行い、森林のはたらき・大切さについて学習しました。どの児童も真剣に聞き入っていました。

その後、全校生徒・児童が集まり、情報交流館の職員から、「森からの恵みをいただく山仕事」と題して、斤・のこぎりなど、昔の道具について説明を受け、見慣れない道具に関心を持つたようでした。

それから、木工教室、コロコロゲーム（トロッコ列車）を作成しました。子ども達は楽しみにしていたようで、手順を聞いた後は、

真剣かつ楽しそうにそれぞれが色使いなど工夫して、素敵な作品に仕上げました。予定時間が少し余ったので、完成させた順番に、講師である正岡さんと、子ども達が完成させた作品でゲームを楽しみ、ご褒美として、全員がジージージェミのプレゼントをもらいました。最初はセミの鳴き声に驚いた様子でしたが、喜んでずつと鳴らす子やどのよ

うな仕組みで鳴くのか探求する子と、時間いっぱい楽しむことができました。これからも、情報交流館とさまざまな連携を図り、お互いによりよい森林環境教育が行えるように協力関係を築いていきたいと考えています。

コロコロゲーム（トロッコ列車）完成



コロコロゲーム（トロッコ列車）完成



紙芝居「森」の読み聞かせ

## 各地のたより

### 木工クラブ教室

〜大月小・松野南小編〜

〈ふれあい推進センター〉

二月三日、高知県大月町

立大月小学校の一〜二年生七一名を対象に、また、二月七日、愛媛県松野町立松野南小学校の全校児童一一名を対象に木工クラブ教室を実施しました。

大月小学校では、始めに、「木材の特徴」と題して、

木の長所である軽くて丈夫なこと、加工しやすいこと、湿度を調整すること、また、短所としては、性質がすぐ硬くならないこと、シロアリ等の被害を受けやすいこと等について学習しまし

た。その後、木工クラブでは、事前に各パーツに加工したものを使って一年生は、『昆虫標本』、二年生は、『コロコロゲーム、山と海』を作製しました。

各パーツに加工していたのが良かったのか、思ったよりみんなの作品が早く完成したため、予め用意していた『ジージージェミ』も作製することが出来、児童のみんなは大喜びでした。

松野南小学校では、始めに、紙芝居「森」で森の大切さを学習しました。

その後、二月末に同校で開かれる「ありがとう集会（感謝祭）」でこの一年間お世話になった地域の方々に



プレゼントする『おひな様』を作製しました。児童は、昨年四月に作品作りを体験していることもあり、スムーズに予定した時間内で目標の四〇セットが完成しました。

両校児童とも、今回の木工クラフト教室により、木の持つ温もりと、素材としての木材の良さについて十分に感じてもらえたものと思います。



大月小学校木工クラフト教室

松野南小学校木工クラフト教室



森林教室(木工クラフト)  
「時計&カレンダー」作り  
〈徳島森林管理署〉

二月一九日、徳島市の昭和保育所から、今年三月に卒業する園児の卒業記念品づくりの依頼を受け、園児九名を対象に森林教室「時計&カレンダー」づくりを行いました。

始めに当署職員が、森林の話として、徳島県の森林(もり)について説明し、その後、本日、木工クラフトで使う木の板や枝、木の実などは、徳島県の各地の山から採れた物であること、を説明しました。また、徳島県に生息するほ乳類などについて説明したところ、園児の中には、大人顔負けの動物に詳しい子がいて、写真を見ただけでモモンガとリスを見分けていました。

続いてクラフト作製に取りかかりましたが、初めての木工ボンドを使う子や材料の木片をまっすぐに並べることに苦労したりと、とても手こずっていました。全員が最後まで楽しそうに取り組んでいて、時間いっぱいまで材料を選んだり、飾ったりしていました。今回のクラフトは小学校中学年以上を対象とする難易度の高いものでしたが、主催した保育所の先生方と事前の綿密な打ち合わせを行っていたこともあり、当日は子供たち全員が立派な作品を完成することができました。

昭和保育所は過去にも森林教室(木工クラフト)を実施するなど、継続した活動を行っており、毎回、工夫を凝らして取り組んでいます。しかし、毎回、園児たちにとっては一生に一度の機会になりますので、当署としても森林や木製品に興味や関心を持ってもらい、木や自然をより身近に感じてもらえるよう努力していこうと考えています。

園児も夢中、「時計&カレンダー」づくり



まずはドングリ、あとはどれを飾ろうかな